

泉のほとり

・顕現後第一主日



箴言は「知恵の書」ですが、聖書が教える知恵は世間の処世術とは異なります。「知恵はこれを握りしめる者にはいのちの木」とあるように、人を「いのち」へ導く、人格の根本的な変化を促し、キリストの似姿へと導くものです。

今月の詩編「第五十二編」
御名に望みをおきます

あなたの慈しみに生きる人に対して

恵み深いあなたの御名に。

「心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らざ」という言葉から、今日の箇所は始まります。直訳すれば「信頼せよ、主に。あなたのすべての心をもつて」となります。自分の理解に寄りかかるのではなく、主に寄りかかれと教えてい

るのです。

次に「常に主を覚えてあなたの道を歩け」とありますが、正確には「あなたのすべての道において、主を知れ」という命令です。ヘブライ語の「ヤーダ（知る）」は体験を伴う「人格的な交わり」を意味します。人は試練にあう時、自分の分別にのみ寄りかかり、それが神のご支配の下にあることを見ようとしません。しかし、どのような道、どのような場面においても、人格的に関わっておられる主を知る。その全幅の信頼を求められているのです。

新年を迎えたが、今年も思わず困難や試練はあるでしょう。しかし、すべての道において、主を知るなら、「主があなたの道筋をまつすぐにしてくださる」のです。まつすぐな道はすでに備えられています。使徒パウロでさえ、アジア州での死に至る試練の中で「自分自身に頼らず、死者を甦らせる神に頼る者となつた」と証言しています。神は私たちとも、そのような揺るぎない信頼関係を築こうとされているのです。知恵者はなお、「自分自身を知恵ある者と見るな（あなた自身の目において賢くあるな）」と警告します。エバが禁断の実を「自分の目によい」と見て食べてしまつたように、人は「目の段階」で悪に陥ります。箴言20章には「異なる二種類の重り……どちらも主は忌み嫌われる」とあります。他

人の不正は見えるのに、自分の利得となると「これは不正ではない」と合理化してしまう。自分の目の賢さに頼る時、神を恐れる心は見えなくなつてしまうのです。

この「神を恐れる心」を私たちの目とする信仰こそ、私たちの砦です。そして、これこそがキリストに結ばれた者が行いうる姿です。十字架は、人の罪に対する神の義であり、妥協なき裁きです。神が御子を代価にされるほどの救いを完成された。その神を知れば知るほど、尊い御名が私ゆえに汚されないようになると恐れ、その御言葉を大切にするようになります。神を恐れる心が自分の目に宿るなら、人を自分の目の賢さで判断せず、主が忌み嫌われるものを私も忌み嫌い、主が喜ばれることを喜んで歩むようになります。その道はいつもまつすぐなのです。

十字架での主イエスの死を通して償わせた神、その絶大な御業を私たちの目の中に置きましょう。それに捕らわれるのは、何事においても神を恐れる知恵に捕らわれて生きるでしょう。

最後に、知恵者は「そうすれば、あなたの筋肉は柔軟になり……」と述べましたが、直訳は「あなたの『へそ』にとつての『癒やし』となり、あなたの骨にとつての潤いとなる」です。「へそ」は命の供給を受ける中心であり、「骨」は体の骨組みです。神を恐れることは、表面的な柔軟さではなく、存在そのものが潤され、健やかにされる幸いなのです。

新しい年、自分の目の判断に頼らず、神を恐れましょう。そう生きるにはまつすぐな道が備えられ、存在そのものが潤されると約束されています。この知恵に生きましょう。

2025年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互に成長する教会

わたしたちのヴィジョン

《今日のお知らせ》

《教育奉仕委員会より》

「証しと祈りの会」について 一名よりお申し出をいたしました。会は二〇二六年三月二九日（日）開催の予定です。

《ルツの会より》

次週、一八日の礼拝後、地下ホールでルツの会を行います。民数記一六章から学びます。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

- 今日は二十歳の祝福礼拝です。
- 礼拝後、交わりの会を地下ホールで行います。

『文 読 詩 篇』

※会衆は太字の箇所を唱和します。

(司・会)の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇五十一篇】指揮者によつて。マスキール。

ダビデの詩。エドム人ドエグがサウルのもとに来て、「ダビデがアヒメレクの家に来た」と告げたとき。

力ある者よ、なぜ悪事を誇るのか。

神の慈しみの絶えることはないが

お前の考えることは破滅をもたらす。

舌は刃物のように鋭く、人を欺く。

お前は善よりも悪を

正しい言葉よりもうそを好み

人を破滅に落とす言葉、欺く舌を好む。

神はお前を打ち倒し、永久に滅ぼされる。

お前を天幕から引き抜き

命ある者の中から根こそぎにされる。

これを見て、神に従う人は神を畏れる。

彼らはこの男を笑つて言つ。

「見よ、この男は神を力と頼まず

自分の莫大な富に依り頼み

自分を滅ぼすものを力と頼んでいた。」

わたしは生い茂るオリーブの木。

神の家にとどまります。

世々限りなく、神の慈しみに依り頼みます。

あなたが計らつてくださいますから

とこしえに、感謝をささげます。

(司・会)

御名に望みをおきます

あなたの慈しみに生きる人に対して恵み深い

あなたの御名に。

『今日の子ども礼拝』

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「全てが神の前にある」

聖書 ダニエル6章19~24節

説教者 宮間彰広兄

『次週の礼拝』

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「人を思う誠実さに生きよう」

聖書 エステル記4章5~17節

説教者 黄允湜牧師

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讃美歌 19番 246番

説教 「天からの光が」

聖書 使徒9章1~19a節

説教者 宮間彰広兄





二十歳の祝福礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 74番 225番

説教 「説教する教会」

聖書 使徒2章1～24節(新約 P.214)

司式 石川一兄

聖餐司式 黄允湜 牧師

説教者 吉村和雄 名誉牧師

前奏曲「オルガン協奏曲変ロ長調より(第1楽章)」
G.F.ヘンデル

○讃美歌74番

1.涯しも知られぬ あまつ海原を
　　わたるや朝日の うららに匂いて
　　み恵みあまねき 父なるみかみを
　　あらわす光ぞ 日々に新なる

2.暮れゆくみ空に 月星ほのめき
　　盈ちかくる影に 変るきらめきに
　　ときわに変らぬ みかみの真理を
　　あらわす光ぞ 夜々に明かなる

3.昼はものいわず よるは語らねど
　　声なきうたごえ 心にぞひびく
　　「われらの生命に まします御神の
　　律法はかしこく 積威こよなし」と
　　　　　　　　　アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○聖歌隊による讃美

「主のみちへ」 B.J.リーチ作曲

主のみちへ 主のみちへ

共に我ら進もう 主イエスは今 待っておられる

主のみちへ 共に進もう 主の命じられるまま

どこまでも行こう 主に従い 歩もう

悲しみも 苦しみも 主イエスは みな知つておられる

共に主のみちを行こう

主イエスは今 生きておられる

主の愛と命を受けよう

主のくださるすべてを 喜び受けよう

主に従い 歩もう 力あふれ 輝き満ち

主のみちへ 主のみちへ

共に我ら進もう

主のみちへ 主のみちへ

輝く主のみちへ行こう

○讃美歌225番

1.すべてのひとに のべつたえよ
　　かみのたまえる みおとずれを
　　あめなる父は み子をくだし
　　すくいのみちを ひらきませり

2.あまねくのべよ よき知らせを
　　まことの幸を もとめつつも
　　むなしきものに さそわれゆく
　　世のはらからに のべつたえよ

3.十字架のうえに 死にたまえる
　　み子こそ永久の すくいなれや
　　かみのたまえる この知らせを
　　地のはてまでも 告げひろめよ アーメン

聖餐曲「来たれ、未知の旅人よ」

(-創世記32章 ヤコブの格闘を題材に-)

D.ウット

後奏曲「たえにうるわしや」D.アグスティーノ